

別添 4

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）
分担研究報告書

『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』について
一 悉皆調査（A 票：分娩施設の概要、及び、病棟における医療体制等）に係る結果一

研究分担者 片岡 弥恵子 聖路加国際大学 大学院看護学研究科
研究分担者 増澤 祐子 新潟県立看護大学 看護学部
研究代表者 野口 晴子 早稲田大学 政治経済学術院

研究要旨

本研究では、令和5年度の予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を参考に、令和6年度に実施された『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』において、悉皆調査（以下、A 票）で調査された質問項目（分娩取扱施設の概要、及び、病棟（ユニット）における医療提供体制等）の記述統計量についての検証を行った。悉皆調査の回収状況については、病院 A 票が 911 件中 341 件（37.4%）、診療所 A 票が 936 件中 465 件（46.7%）、助産所票が 326 件中 206 件（63.2%）であった。

本研究の結果についてはいくつか留意すべき点がある。第1に、分析に用いたデータは、外れ値や誤答と思われるものが含まれているため、あくまでも速報値であり、令和7年度に研究班が精査を行う予定である。第2に、修正や調整が可能と判断したデータについては、研究班により統計的な処理を施した。第3に、以上の理由により、群間での違いに対する統計的な検定は殆ど行っておらず、群間での統計的な有意差についても、データの精査後に研究班にて行う予定である。

調査の結果、分娩施設の概要については、以下のような結果が得られた。

- (1) 常勤の「産婦人科医師」、「小児科医師」、「麻酔科医師」の平均人数は、総合・地域周産期母子医療センターで最も多かった。「夜勤帯・休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆け付けることができるように待機している人数（院内）」については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院と診療所が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターで最も多かった。「院外」での待機については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は同数であり、「麻酔科医師」は総合・地域周産期母子医療センターで多かった。
- (2) 1 か月間の「全分娩数」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターは 43 件、それ以外の病院 36 件、診療所 36 件であった。

- (3) 「無痛分娩」は、総合・地域周産期母子医療センター42%、それ以外の病院 48%、診療所 44%で実施されていた。「無痛分娩」の平均設定価格は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は約 12 万円、診療所は約 9 万円であった。
- (4) 「出産目的で入院する妊産婦の最も多くみられる入院日数」は、帝王切開分娩で平均 7 日程度、経膈分娩で初産婦 5～6 日程度、経産婦 5 日程度であり、施設種別で大きな差はなかった。
- (5) 「お祝い膳」は、総合・地域周産期母子医療センターで 79%、それ以外の病院で 84%、診療所で 76%、助産所の 31%で提供されていた。料金は、80%以上の施設で料金が個別に明示されず、入院料等に含まれていた。「写真撮影」を提供しているのは、総合・地域周産期母子医療センターは 19%、それ以外の病院 50%、診療所 57%、助産所の 45%であった。提供している施設の 60%以上の施設で料金が個別に明示されず、入院料等に含まれていた。「エステ」は、診療所で 50%、助産所で 33%、それ以外の病院で 24%、総合・地域周産期母子医療センターの 7%で提供されていた。料金は、70%以上の施設で料金が個別に明示されず、入院料等に含まれていた。

助産所に特化した質問項目からは、下記のような結果が得られた。

- (6) 「入所施設を有する助産所」が 78%、「入所施設を有さない助産所」が 22%であった。「入所施設を有する助産所 (N=158) の入所定員は、平均 3 名であった。
- (7) 助産所における 1 年間の分娩取扱件数の平均は 13 件。「初産婦」3 件、「経産婦」10 件で「経産婦」の方が多かった。
- (8) 分娩場所別では、「自助産所内での分娩」が最も多く平均 11.7 件、続いて「自宅等への出張分娩」が 1.4 件、「オープンシステムによる分娩」は 0.6 件であった。「母体搬送」件数は、分娩第 1 期中は平均 0.7 件、第 2 期中は平均 0.1 件、第 3 期 0.1 件、第 4 期 0.2 件であった。
- (9) 分娩時の体制として、「自院の助産師で複数体制としている」のが 44%、「自院と他院の助産師にて複数人体制としている」のが 48%であり、「助産師が 1 名で対応しているという助産所はなかった。

最後に、病棟 (ユニット) における医療提供体制については、次のようなことが明らかとなった。

- (10) 「病棟 (ユニット) 票」は病院を対象として調査を実施し、325 件 (総合・地域周産期母子医療センター142 件、それ以外の病院 183 件) からの回答があり、1 施設あたりの「病棟・ユニット数」は約 1.1、「1 病棟・ユニット当たりの病床数」は約 30 床であった。
- (11) 病棟構成全般をみると、「混合病棟」が 68%と多く、なかでも「婦人科および他科診療科での混合病棟」が 38%であった。
- (12) 「病棟における産科患者の入院割合」は総合・地域周産期母子医療センターで 60%、それ以外の病院で 47%であった。

- (13) 「全室個室」の割合は、総合・地域周産母子医療センターで19%、それ以外の病院で25%だった。
- (14) 「1日当たりの室料差額料金」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターが43,233円で、25,107円のそれ以外の病院よりも高かった。
- (15) 「産婦人科医師」については、診療業務に従事した医師数、医師の対応時間ともに、「産褥入院中」に比べて「分娩期」の方が多かった。「小児科・新生児科医師」については、医師の対応時間が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。
- (16) 「看護職」については、ケアに従事した時間数が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。

A. 研究目的

本研究では、令和5年度の予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を参考に、令和6年度に実施された『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』において、悉皆調査（以下、A票）で調査された質問項目（分娩取扱施設の概要、及び、病棟（ユニット）における医療提供体制等）の記述統計量についての検証を行う。

B. 研究方法

B-1. 研究概要

本研究では、全国の分娩取扱施設2,173件を対象に、令和6年9月の1か月間（但し、助産所については、令和6年9月又は10月のいずれかの1か月、郵送調査とオンライン調査（Excelシート）の併用により、施設の構造や実績・患者（産婦）の実態・費用構造等に対する調査を実施した。

質問票は、大きく、悉皆調査（以下、「A票」）とサンプル調査（以下、「B票」）の2つから構成されている。更に、分娩施設の機能別に、「病院A票」・「病院B票」、「診療所A票」・「診

療所B票」、及び、「助産所票」の5種類に分類されている。助産所を対象とした調査は全質問項目について悉皆で実施したため、「A票」と「B票」の区別はない。

本研究で検証を行うA票の調査内容は、施設情報（構造設備・医療体制・分娩件数・付帯サービスの種類や価格等）、及び、病院のみを対象とした病棟情報（病棟構成・配置職員数等）である。

悉皆調査の回収状況については、病院A票が911件中341件（37.4%）、診療所A票が936件中465件（46.7%）、助産所票が326件中206件（63.2%）であった。

（倫理面への配慮）

本研究では、『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』を実施するに当たり、早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」にて、実施承諾を受けている（承認番号：2024-044；承認日：令和6年5月4日）。

C. 研究結果

C-1. 分娩取扱施設の概要

表1は構造設備の状況を示しており、「分娩室数」、「分娩台数」等の設備は、総合・地域周産期母子医療センターが最も多く、続いてそれ以外の病院であった。「集中監視システム機器」は、それ以外の病院で98%、総合・地域周産期母子医療センターで80%、診療所では69%が設置していた。

表2は、職員数に関する結果である。総合・地域周産期母子医療センターでは職員数が多く配置されており、「産婦人科医師数」は平均約11名、「小児科医師数」約15名、「麻酔科医師数」約11名、「助産師数」約36名であった。また、「産婦人科医師数」の平均は、それ以外の病院で約6名、診療所で約3名であった。「小児科医師数」の平均は、それ以外の病院で約14名（うち非常勤の常勤換算10名）であった。「助産師数」の平均は、それ以外の病院で約21名、診療所約9名であった。

表3は、夜勤帯・休日のオンコールの人数を示しており、「夜勤帯・休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆け付けることができるように待機している人数（院内）」については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院と診療所が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターで最も多かった。また、「院外」での待機については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は同数であり、「麻酔科医師」は総合・

地域周産期母子医療センターで多かった。

表4は、分娩件数である。1か月間の「分娩数」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターは43件、それ以外の病院36件、診療所36件であった。助産所の1年間の平均は、13件であった。正期産の「帝王切開」は、予定および緊急とも、総合・地域周産期母子医療センターが最も多かった。

1か月間の「無痛分娩（硬膜外麻酔）数」の平均は、それ以外の病院が最も多く、次に診療所、総合・地域周産期母子医療センターの順であった。

「出産目的で入院する妊産婦の最も多くみられる入院日数」は、帝王切開分娩で平均7日程度、経膈分娩で初産婦5～6日程度、経産婦5日程度であり、施設種別で大きな差はなかった。

表5は、提供されているサービスと料金を示している。「お祝い膳」は、総合・地域周産期母子医療センターで79%、それ以外の病院で84%、診療所で76%の施設で提供されていた。一方、助産所では31%であった。「お祝い膳」の料金は、80%以上の施設で入院料等に含まれていた。入院料等に含まれていない施設での「お祝い膳」の設定価格は、平均1,000～2,000円程度であった。「写真撮影」を提供しているのは、総合・地域周産期母子医療センターは19%、それ以外の病院50%、診療所57%、助産所の45%であった。提供している施設の60%以上の施設で、入院料等に含まれていた。含まれていない施設での平均設定価格は、診療所3,083円、それ以外の病院4,508円、助産所5,083円であった。「足形」は、助産所

で最も多く提供され（62%）、続いて診療所（56%）であった。提供している施設の70%以上が入院料等の料金に含まれていた。「エステ」は、診療所で50%、助産所で33%、それ以外の病院で24%、総合・地域周産期母子医療センターで7%の施設で提供されていた。どの施設種別でも70%以上が入院料等に含まれていた。

表6は、無痛分娩や検査等と料金を示している。「無痛分娩」は、総合・地域周産期母子医療センター42%、それ以外の病院48%、診療所44%で実施されていた。「無痛分娩」の平均設定価格は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は約12万円、診療所は約9万円であった。「先天性代謝異常等検査」および「ビタミンK2」投与は、どの施設種別でも90%以上が実施していた。「新生児聴覚検査」は、総合・地域周産期母子医療センター、それ以外の病院、診療所では、99%以上が実施しており、90%以上の施設が自治体からの補助を受けていた。助産所での実施は47%であった。

「新生児1か月健診」は、総合・地域周産期母子医療センター、それ以外の病院、診療所では、94%以上が実施されていた。「自治体からの補助」があったのは60%台であった。

C-2. 助産所について

以下では、助産所に特化した質問項目に対する概要を示す。

表7は、助産所に係る基本情報・入所室の概要である。本調査の対象となった助産所は204件で、すべて分娩取扱があり、「入所施設を有する助産所」が78%、「入所施設を有さない助産所」が

22%であった。「入所施設を有する助産所」（N=158）の入所定員は、平均3名であった。「入所施設を有する助産所」では、入所定員1名の入所室（個室）は平均2.6室あり、2名の入所室は平均0.5室、3名の入所室0.2室であった。

表8は、施設・設備等、及び、職員数である。88%の助産所には「分娩室」があり、設置していないと回答した助産所は、「入所室」と「分娩室」を分けていなかった。58%が「新生児沐浴室」を設置していた。「給食設備」は80%が設置していた。助産所における「助産師数」の平均は、常勤1.4名、非常勤2.2名であった。

表9は勤務体制を示している。助産所において入所者が1名の場合、助産師は平均1.5名が勤務しており、最も少ない助産所では1名であった。夜勤帯でも、助産師は平均1.1名の勤務となっていた。

表10は勤務時の体制である。分娩時の体制として、「自院の助産師で複数人体制としている」のが44%、「自院と他院の助産師にて複数人体制としている」のが48%であり、「助産師が1名で対応している」という助産所はなかった。他施設の助産師への支払い方法で最も多かったのは、「産婦1名毎に依頼し支払い」が35%であり、続いて「時給」（7%）、「日給」（4%）、「月給」（1%）であった。

表11は、嘱託医師・嘱託医療機関等との連携体制である。すべての助産所は、「嘱託医師あるいは嘱託医療機関」があった（未回答2施設除く）。「嘱託医師数」、「嘱託医療機関数」とも平均は1.5件であり、「連携医療機関数」は平均1.7

件であった。「嘱託医師・嘱託医療機関、連携医療機関との出産予定妊婦に関する定期的な情報共有」は、84%の助産所が行っていた。「事例検討会・勉強会・研修会等」には、58%の助産所が参加していた。

C-3. 病棟（ユニット）における医療提供体制

表 12 は、病棟（ユニット）票の基本情報を示している。「病棟（ユニット）票」は病院を対象として調査を実施し、325 件（総合・地域周産期母子医療センター142 件、それ以外の病院 183 件）からの回答があり、1 施設あたりの「病棟・ユニット数」の平均は 1.1、「1 病棟・ユニット当たりの病床数」の平均は 30 床であった。病棟構成全般をみると、「混合病棟」が 68%と多く、なかでも「婦人科および他科診療科での混合病棟」が 38%となっていた。

表 13 は、病床数と入院料、及び、室料差額の結果である。「全室個室」の割合は、総合・地域周産期母子医療センターで 19%、それ以外の病院で 25%だった。

「1 日当たりの室料差額料金」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターが 43,233 円で、25,107 円のそれ以外の病院よりも高い傾向にあり、かつ、個室と 2 床室との差も若干大きかった。

表 14 は、病棟（ユニット）に配置されている職員数である。常勤の助産師・看護師については、総合・地域周産期母子医療センターの方が、それ以外の病院に比べ人数が多い一方で、非常勤職員及び准看護師・看護補助者・保育士については両群で差はなかった。

表 15 は、分娩期・産褥期の医師数、医師の対応時間の結果である。「分娩期、産褥入院中の医師数、医師の対応時間」について、総合・地域周産期母子医療センターがそれ以外の病院と比べ、人数・時間ともに数は大きかったが、標準偏差からばらつきも大きい。「産婦人科医師」については、診療業務に従事した医師数、医師の対応時間ともに、「産褥入院中」に比べて「分娩期」の方が多かった。「小児科・新生児科医師」については、医師の対応時間が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。

表 16 は、産科の患者の入院割合、看護職の従事時間等を示している。「病棟における産科患者の入院割合」は総合・地域周産期母子医療センターで 60%、それ以外の病院で 47%だった。「看護職」は、総合・地域周産期母子医療センターの方が、それ以外の病院と比べ、労働時間数が長いが、標準偏差からばらつきも大きかった。「看護職」については、ケアに従事した時間数が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。

D. 考察/E. 結論

本研究では、令和 5 年度の予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を参考に、令和 6 年度に実施された『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』において、悉皆調査（以下、A 票）で調査された質問項目（分娩取扱施設の概要、及び、病棟（ユニット）における医療提供体制等）の記述統計量についての検証を行った。

その結果、様々な観点から、分娩取扱施設の実態が明らかにされたが、本研究

の結果についてはいくつか留意すべき点がある。第1に、分析に用いたデータは、外れ値や誤答と思われるものが含まれているため、あくまでも速報値であり、令和7年度に研究班が精査を行う予定である。第2に、修正や調整が可能と判断したデータについては、研究班により統計的な処理を施した。第3に、以上の理由により、群間での違いに対する統計的な検定は殆ど行っておらず、群間での統計的な有意差についても、データの精査後に研究班にて行う予定である。

F. 健康危険情報

特に無し。

G. 研究発表

1. 論文発表

特に無し。

2. 学会発表

特に無し。

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

特に無し。

2. 実用新案登録

特に無し。

3. その他

特に無し。

参考文献

厚生労働省. (2025) 第9回「妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会(資料1)」, 令和7年4月16日.

<https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/001476650.pdf> (閲覧日: 令和7年5月15日)

表 1

構造設備

- 「分娩室数」、「分娩台数」等の設備は、総合・地域周産期母子医療センターが最も多く、続いてそれ以外の病院であった。
- 「集中監視システム機器」は、それ以外の病院で98%、総合・地域周産期母子医療センターで80%、診療所では69%が設置していた。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180				それ以外の病院 N=148				診療所 N=465				助産所 N=204			
	n	Mean(SD)	最小	最大	n	Mean(SD)	最小	最大	n	Mean(SD)	最小	最大	n	Mean(SD)	最小	最大
分娩室数	169	2.1(1.5)	0	9	147	1.6(1.2)	0	5	425	1.4(1.6)	0	19	191	1.3(0.5)	1	2
分娩台数	170	3.0(1.6)	0	13	148	2.7(1.1)	0	6	444	2.0(0.8)	0	6	-	-	-	-
LDR室数	169	1.5(2.0)	0	14	146	1.3(1.5)	0	6	418	0.9(1.2)	0	8	-	-	-	-
陣痛室数	169	1.5(1.4)	0	9	147	1.5(1.4)	0	9	432	1.2(1.2)	0	13	-	-	-	-
超音波画像診断装置（分娩室用）台数	167	1.3(1.1)	0	7	148	1.1(1.6)	0	17	434	1.1(0.9)	0	6	199	0.9(0.5)	0	2
分娩監視装置台数	165	11.1(6.8)	1	41	146	7.5(3.8)	1	23	451	5.2(2.4)	1	15	199	1.3(0.7)	0	4
保育器（開放式）インファントウォーマー台数	167	5.2(5.2)	0	40	147	3.7(2.1)	1	16	456	2.0(1.2)	0	15	199	0.1(0.4)	0	2

	総合・地域周産期母子医療センター		それ以外の病院		診療所		助産所	
	N	n(%)	N	n(%)	N	n(%)	N	n(%)
集中監視システム機器あり	167	134(80.2)	146	143(97.9)	448	308(68.8)	-	-
なし		33(19.8)		3(2.1)		140(31.3)	-	-

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
 ※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

表 2

職員数

- 総合・地域周産期母子医療センターでは職員数が多く配置されており、「産婦人科医師数」は平均約11名、「小児科医師数」約15名、「麻酔科医師数」約11名、「助産師数」約36名であった。
- 「産婦人科医師数」の平均は、それ以外の病院で約6名、診療所で約3名であった。「小児科医師数」の平均は、それ以外の病院で約14名（うち非常勤の常勤換算10名）であった。「助産師数」の平均は、それ以外の病院で約21名、診療所約9名であった。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180				それ以外の病院 N=148				診療所 N=465				助産所 N=204			
	n	Mean(SD)	最小	最大	n	Mean(SD)	最小	最大	n	Mean(SD)	最小	最大	n	Mean(SD)	最小	最大
産婦人科医師数																
常勤	178	9.7(7.0)	0	36	148	5.1(3.2)	1	24	457	1.8(1.1)	0	10	-	-	-	-
非常勤の常勤換算	167	1.5(2.5)	0	14.1	140	1.3(1.8)	0	15.0	408	1.3(1.9)	0	18.0	-	-	-	-
小児科医師数（新生児科医含）																
常勤	176	12.4(12.6)	0	76	146	3.6(6.9)	0	78	395	0.1(0.4)	0	3	-	-	-	-
非常勤の常勤換算	166	2.3(4.5)	0	23.0	134	10.0(106.1)	0	1229.0	400	0.3(0.6)	0	4.0	-	-	-	-
麻酔科医師数																
常勤	172	9.0(9.1)	0	44	144	3.7(4.5)	0	28	396	0.1(0.4)	0	3	-	-	-	-
非常勤の常勤換算	163	2.2(3.9)	0	21.4	139	0.8(1.2)	0	5.4	385	0.1(0.6)	0	8.0	-	-	-	-
助産師数																
常勤	175	33.9(27.5)	0	195	144	18.5(11.2)	0	51	455	6.4(4.6)	0	29	199	1.4(1.2)	0	10
非常勤の常勤換算	174	1.9(3.1)	0	29.6	139	2.6(5.7)	0	61.0	437	2.4(2.3)	0	14.0	186	2.2(2.8)	0	22
保健師数																
常勤	168	3.2(11.9)	0	108	135	2.1(7.4)	0	50	380	0(0.3)	0	3	-	-	-	-
非常勤の常勤換算	167	0.2(0.6)	0	3.8	134	0.1(0.5)	0	4.6	372	0(0.1)	0	1.0	-	-	-	-
看護師数																
常勤	174	492.5(298.3)	4	1499	145	232.6(223.8)	1	1110	451	3.8(3.0)	0	17	176	0(0.2)	0	2
非常勤の常勤換算	174	25.2(25.5)	0	205.0	143	14.3(15.1)	0	75.9	417	1.2(1.5)	0	9.0	176	0.1(0.4)	0	2
准看護師数																
常勤	169	1.8(2.7)	0	11	142	3.0(4.4)	0	29	435	2.3(2.3)	0	12	175	0(0)	0	0
非常勤の常勤換算	169	1.2(2.0)	0	14.2	141	1.2(2.0)	0	16.1	409	0.6(1.0)	0	8.1	173	0.0(0.1)	0	1

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
 ※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
 ※ 産婦人科医師数、小児科医師数、助産師数、看護師数等の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。

表3

夜勤帯・休日のオンコールの人数

- 「夜勤帯・休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆け付けることができるように待機している人数（院内）」については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院と診療所が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターで最も多かった。
- 「院外」での待機については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は同数であり、「麻酔科医師」は総合・地域周産期母子医療センターで多かった。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180				それ以外の病院 N=148				診療所 N=465			
	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大
院内												
産婦人科医師	163	0.4 (1.0)	0	11	134	0.6 (3.6)	0	42	410	0.6 (0.6)	0	2
小児科医師	158	0.3 (0.5)	0	3	133	0.1 (0.3)	0	1	365	0.0 (0.2)	0	1
麻酔科医師	156	0.2 (0.6)	0	3	131	0.1 (0.3)	0	1	369	0.1 (0.2)	0	2
その他	140	0.5 (3.0)	0	23	126	0.1 (0.5)	0	4	352	0.1 (0.3)	0	4
院外												
産婦人科医師	171	1.0 (0.8)	0	5	143	1.3 (1.7)	0	19	416	0.9 (0.7)	0	3
小児科医師	165	1.1 (2.7)	0	33	141	1.1 (4.8)	0	54	368	0.1 (0.3)	0	2
麻酔科医師	162	0.8 (0.8)	0	5	138	0.6 (0.6)	0	5	370	0.1 (0.3)	0	1
その他	139	1.1 (3.8)	0	23	126	0.4 (1.7)	0	15	346	0.2 (0.6)	0	5

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
 ※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
 ※ 産婦人科医師数、小児科医師数、麻酔科医師数等の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。その他には、助産師、看護師等が含まれる。

表4

分娩件数等

- 1か月間の「分娩数」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターは43件、それ以外の病院36件、診療所36件であった。助産所の1年間の平均は、13件であった。正期産の「帝王切開」は、予定および緊急とも、総合・地域周産期母子医療センターが最も多かった。
- 1か月間の「無痛分娩（硬膜外麻酔）数」の平均は、それ以外の病院が最も多く、次に診療所、総合・地域周産期母子医療センターの順であった。
- 「出産目的で入院する妊産婦の最も多くみられる入院日数」は、帝王切開分娩で平均7日程度、経陰分娩で初産婦5~6日程度、経産婦5日程度であり、施設種別で大きな差はなかった。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180				それ以外の病院 N=148				診療所 N=465				助産所 N=204			
	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大
全分娩数	168	43.04(42.91)	0	340	143	35.61(29.67)	0	135	442	35.83(63.52)	0	832	196	12.72(13.68)	0	85
全分娩数のうち、早産の経陰分娩件数																
胎子分娩	159	0.03(0.19)	0	2	129	0.00(0.00)	0	0	379	0.01(0.13)	0	2	-	-	-	-
吸引分娩	161	0.11(0.40)	0	3	130	0.08(0.56)	0	6	379	0.07(0.43)	0	7	-	-	-	-
上記以外	162	2.52(4.66)	0	42	134	0.58(0.94)	0	4	393	0.44(1.01)	0	12	-	-	-	-
全分娩数のうち、経陰分娩件数（37週以降）																
胎子分娩	160	0.96(6.21)	0	72	129	0.53(1.75)	0	13	396	0.88(4.15)	0	48	-	-	-	-
吸引分娩	162	2.65(4.90)	0	35	135	3.76(4.93)	0	27	419	4.22(12.73)	0	236	-	-	-	-
上記以外	164	20.93(24.61)	0	191	138	21.64(21.15)	0	98	409	19.27(26.62)	0	371	-	-	-	-
全分娩数のうち、早産の帝王切開術数																
予定帝王切開術数	162	0.69(1.35)	0	9	129	0.09(0.35)	0	3	389	0.08(0.64)	0	10	-	-	-	-
緊急帝王切開術数	162	2.78(3.45)	0	23	131	0.37(0.97)	0	8	391	0.16(0.67)	0	8	-	-	-	-
全分娩数のうち、帝王切開術数（37週以降）																
予定帝王切開術数	163	7.45(6.28)	0	46	139	3.99(3.40)	0	16	432	3.36(5.99)	0	102	-	-	-	-
緊急帝王切開術数	163	4.23(5.14)	0	46	136	3.51(5.56)	0	56	424	1.86(3.87)	0	68	-	-	-	-
全分娩数のうち、無痛分娩件数																
硬膜外麻酔	161	3.90(12.92)	0	98	134	6.25(12.67)	0	86	409	6.00(30.96)	0	601	-	-	-	-
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔	161	0.91(3.69)	0	24	130	0.16(0.98)	0	9	380	0.52(4.49)	0	63	-	-	-	-
その他の麻酔	180	0.16(1.03)	0	11	130	0.07(0.59)	0	6	371	0.36(2.80)	0	40	-	-	-	-
上記に当てはまらない分娩																
	147	0.51(1.99)	0	14	120	0.63(3.58)	0	30	355	1.11(4.44)	0	35	-	-	-	-
全分娩数のうち院内助産の分娩数																
	153	2.97(10.33)	0	84	114	2.37(8.64)	0	53	355	1.66(8.68)	0	127	-	-	-	-
出産目的で入院する妊産婦の最も多い入院日数																
経陰分娩（初産婦）	162	6.10(2.78)	0	34	137	5.70(1.29)	0	10	446	5.30(0.96)	0	9	-	-	-	-
経陰分娩（経産婦）	162	5.50(2.46)	0	31	137	5.32(1.22)	0	10	446	4.89(0.85)	0	8	-	-	-	-
帝王切開分娩	163	7.64(2.50)	0	22	135	7.79(1.88)	0	16	426	7.37(1.92)	0	13	-	-	-	-

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
 ※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。分娩数、入院日数等の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。
 ※ 分娩件数は、助産所のみ1年間（令和5年9月1日～令和6年8月31日もしくは令和5年10月1日～令和6年9月30日）の分娩件数、それ以外は1か月間（令和6年9月1日～9月30日）の分娩件数を示す。

表 5

提供されているサービスと料金

- 「お祝い膳」は、総合・地域周産期母子医療センターで79%、それ以外の病院で84%、診療所で76%の施設で提供されていた。一方、助産所では31%であった。「お祝い膳」の料金は、80%以上の施設で入院料等に含まれていた。入院料等に含まれていない施設での「お祝い膳」の設定価格は、平均1,000～2,000円程度であった。
- 「写真撮影」を提供しているのは、総合・地域周産期母子医療センターは19%、それ以外の病院50%、診療所57%、助産所の45%であった。提供している施設の60%以上の施設で、入院料等に含まれていた。含まれていない施設での平均設定価格は、診療所3,083円、それ以外の病院4,508円、助産所5,083円であった。
- 「足形」は、助産所で最も多く提供され（62%）、続いて診療所（56%）であった。提供している施設の70%以上が入院料等の料金に含まれていた。
- 「エステ」は、診療所で50%、助産所で33%、それ以外の病院で24%、総合・地域周産期母子医療センターで7%の施設で提供されていた。どの施設種別でも70%以上が入院料等に含まれていた。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180		それ以外の病院 N=148		診療所 N=465		助産所 N=204	
	N	n(%)	N	n(%)	N	n(%)	N	n(%)
お祝い膳								
あり		136(78.6)		124(84.4)		346(75.5)		59(30.7)
なし	173	27(15.6)	147	15(10.2)	458	109(22.5)	192	128(66.7)
妊産婦が選択		10(5.8)		8(5.4)		9(2.0)		5(2.6)
入院料等の他の料金に含まれる		121(87.1)		113(87.6)		307(88.2)		56(90.6)
含まれない	139	18(12.9)	129	16(12.4)	348	41(11.8)	64	6(9.4)
入院料等の他の料金に含まれない場合の平均設定価格	14	1,172円	13	1,099円	30	2,462円	4	2,000円
写真撮影								
あり		32(18.5)		73(50.3)		259(56.7)		89(45.2)
なし	173	117(67.6)	145	60(41.4)	457	136(29.8)	197	100(49.6)
妊産婦が選択		24(13.9)		12(8.3)		62(13.6)		28(14.2)
入院料等の他の料金に含まれる		38(69.1)		61(71.8)		229(72.9)		76(66.7)
含まれない	55	17(30.9)	85	24(28.2)	314	85(27.1)	114	38(33.3)
入院料等の他の料金に含まれない場合の平均設定価格	12	420円	14	4,508円	62	3,083円	24	5,083円
足形								
あり		50(28.9)		61(42.7)		257(56.4)		120(61.5)
なし	173	117(67.6)	143	79(55.2)	456	190(41.7)	195	61(31.3)
妊産婦が選択		6(3.5)		3(2.1)		9(2.0)		14(7.2)
入院料等の他の料金に含まれる		42(77.8)		49(80.3)		206(80.9)		97(72.9)
含まれない	54	12(22.2)	61	12(19.7)	257	49(19.1)	133	36(27.1)
入院料等の他の料金に含まれない場合の平均設定価格	10	888円	6	0円	33	212円	22	261円
エステ（乳房マッサージは除く）								
あり		12(6.9)		35(24.0)		225(49.5)		83(32.5)
なし	173	155(89.6)	146	106(72.6)	455	191(42.0)	194	112(57.7)
妊産婦が選択		6(3.5)		5(3.4)		39(8.6)		19(9.8)
入院料等の他の料金に含まれる		12(75.0)		31(77.5)		201(78.5)		83(75.9)
含まれない	16	4(25.0)	40	9(22.5)	256	55(21.5)	83	20(24.1)
入院料等の他の料金に含まれない場合の平均設定価格	2	1,000円	8	1,989円	50	2,779円	15	3,200円

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
 ※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
 ※ 入院料等の他の料金に含まれる/含まれないは、「あり」「妊産婦が選択」の場合に回答された。

表 6

無痛分娩や検査等と料金

- 「無痛分娩」は、総合・地域周産期母子医療センター42%、それ以外の病院48%、診療所44%で実施されていた。「無痛分娩」の平均設定価格は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は約12万円、診療所は約9万円であった。
- 「先天性代謝異常等検査」および「ビタミンK2」投与は、どの施設種別でも90%以上が実施していた。
- 「新生児聴覚検査」は、総合・地域周産期母子医療センター、それ以外の病院、診療所では、99%以上が実施しており、90%以上の施設が自治体からの補助を受けていた。助産所での実施は47%であった。
- 「新生児1か月健診」は、総合・地域周産期母子医療センター、それ以外の病院、診療所では、94%以上が実施されていた。「自治体からの補助」があったのは60%台であった。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180		それ以外の病院 N=148		診療所 N=465		助産所 N=204	
	N	n(%)	N	n(%)	N	n(%)	N	n(%)
無痛分娩								
実施あり		73(41.5)		69(47.6)		200(44.1)	—	—
実施なし	176	103(58.5)	145	76(52.4)	454	254(55.9)	—	—
無痛分娩平均設定価格	75	115,340円	67	123,804円	207	85,897円	—	—
先天性代謝異常等検査								
実施あり		161(93.1)		139(96.5)		432(95.6)		192(96.5)
実施なし	173	12(6.9)	144	5(3.5)	452	20(4.4)	199	7(3.5)
先天性代謝異常等検査平均設定価格	148	5,047円	122	4,359円	352	4,535円	163	3,690円
新生児聴覚検査								
実施あり		174(100)		145(99.3)		448(99.1)		94(46.8)
実施なし	174	0(0)	146	1(0.7)	452	4(0.9)	201	107(53.2)
自治体の補助の有		157(92.9)		127(91.4)		411(92.4)		120(80.0)
自治体の補助の無	169	12(7.1)	139	12(8.6)	445	34(7.6)	150	30(20.0)
自治体の平均補助額	151	4,161円	120	3,988円	376	4,171円	92	4,299円
新生児聴覚検査平均設定価格	165	6,284円	136	6,140円	419	5,600円	95	5,919円
ビタミンK2								
実施あり		162(95.3)		139(97.9)		451(99.6)		197(98.5)
実施なし	170	8(4.7)	142	3(2.1)	453	2(0.4)	200	3(1.5)
ビタミンK2平均設定価格	143	601円	124	746円	384	1,021円	157	1,249円
新生児1か月健診								
実施あり		169(98.3)		141(97.2)		424(93.8)		159(78.3)
実施なし	172	3(1.7)	145	4(2.8)	452	28(6.2)	201	42(20.9)
自治体の補助の有		114(68.7)		82(60.3)		258(60.4)		87(48.9)
自治体の補助の無	166	82(51.3)	136	54(39.7)	427	169(39.6)	178	91(51.1)
自治体の平均補助額	104	4,955円	76	5,243円	238	4,943円	75	4,493円
新生児1か月健診平均設定価格	149	4,550円	131	4,465円	391	4,282円	151	4,720円

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
 ※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

表 7

助産所の基本情報・入所室概要

- 本調査の対象となった助産所は204件。すべて分娩取扱があり、「入所施設を有する助産所」が78%、「入所施設を有さない助産所」が22%であった。
- 「入所施設を有する助産所」(N=158)の入所定員は、平均3名であった。
- 「入所施設を有する助産所」では、入所定員1名の入所室(個室)は平均2.6室あり、2名の入所室は平均0.5室、3名の入所室0.2室であった。

N = 204			N=158					
	n	(%)	有効回答数	Mean	(SD)	最小	最大	
分娩の取扱の実施状況								
あり	204	(100)	156	3.0	(1.7)	1	9	
なし	0	(0)						
入所施設の有無								
あり	158	(77.5)						
なし	44	(21.6)						
未回答	2	(1.0)						
			入所室					
			入所室/入所定員1名の入所室	145	2.6	(1.5)	0	7
			入所室/入所定員2名の入所室	91	0.5	(1.0)	0	4
			入所室/入所定員3名の入所室	82	0.2	(0.6)	0	3
			入所室/入所定員4名以上の入所室	76	0	(0.0)	0	0

※ 入所施設を有する助産所 (n=158) による回答である。
 ※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

表 8

施設・設備等、職員数

- 88%の助産所には「分娩室」があり、設置していないと回答した助産所は、「入所室」と「分娩室」を分けていなかった。58%が「新生児沐浴室」を設置していた。「給食設備」は80%が設置していた。
- 助産所における「助産師数」の平均は、常勤1.4名、非常勤2.2名であった。

N = 158			N = 204					
	n	(%)	有効回答数	mean	SD	最小	最大	
分娩室								
あり	139	(88.0)	167	41.2	(39.4)	0	414	
なし	17	(10.8)						
未回答	2	(1.3)						
入所室と分娩室を分けている (n=17)								
いる	0	(0.0)						
いない	17	(100.0)						
未回答	0	(0.0)						
新生児室								
あり	17	(10.8)						
なし	139	(88.0)						
未回答	2	(1.2)						
新生児沐浴室								
あり	91	(57.6)						
なし	65	(41.1)						
未回答	2	(1.3)						
給食設備								
あり	127	(80.4)						
なし	30	(19.0)						
未回答	1	(0.6)						
			常勤勤務の週あたりの勤務時間数					
			助産師					
			常勤	199	1.4	(1.2)	0	10
			非常勤(常勤換算)	186	2.2	(2.8)	0	22
			看護師					
			常勤	176	0.0	(0.2)	0	2
			非常勤(常勤換算)	176	0.1	(0.4)	0	2
			准看護師					
			常勤	175	0.0	(0.0)	0	0
			非常勤(常勤換算)	173	0.0	(0.1)	0	1
			看護補助者					
			常勤	175	0.0	(0.1)	0	1
			非常勤(常勤換算)	177	0.1	(0.5)	0	4
			管理栄養士					
			常勤	173	0.0	(0.1)	0	1
			非常勤(常勤換算)	173	0.1	(0.3)	0	2
			栄養士					
			常勤	175	0.0	(0.1)	0	1
			非常勤(常勤換算)	174	0.1	(0.3)	0	3
			その他の職員					
			常勤	177	0.2	(0.7)	0	6
			非常勤(常勤換算)	181	1.2	(2.8)	0	32

※ 入所施設を有する助産所 (n=158) による回答である。

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。人数の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。

表 9

勤務体制

- 助産所において入所者が1名の場合、助産師は平均1.5名が勤務しており、最も少ない助産所では1名であった。夜勤帯でも、助産師は平均1.1名の勤務となっていた。

N = 158

	n	(%)	Mean	(SD)	最小	最大
入所者がいない場合（日勤帯／常勤換算）						
助産師 (n=158)	—	—	1.4	(0.78)	0	5.0
看護師 (n=133)	—	—	0.1	(0.55)	0	6.0
その他 (n=139)	—	—	0.5	(0.96)	0	7.0
入所者がいない場合（夜勤帯／常勤換算）						
助産師 (n=155)	—	—	0.7	(0.58)	0	3.4
看護師 (n=132)	—	—	0.0	(0.00)	0	0.0
その他 (n=134)	—	—	0.1	(0.22)	0	1.0
入所者が1名の場合（日勤帯／常勤換算）						
助産師 (n=157)	—	—	1.5	(0.75)	1	5.0
看護師 (n=132)	—	—	0.0	(0.20)	0	1.16
その他 (n=143)	—	—	0.8	(0.96)	0	7.0
入所者が1名の場合（夜勤帯／常勤換算）						
助産師 (n=157)	—	—	1.1	(0.39)	0	3.4
看護師 (n=132)	—	—	0.0	(0.09)	0	1.0
その他 (n=134)	—	—	0.2	(0.58)	0	5.0
入所者が2名以上の場合（日勤帯／常勤換算）						
2名以上入所することはない (n=157)						
はい	38	(24.1)	—	—	—	—
いいえ	119	(75.3)	—	—	—	—
助産師 (n=129)	—	—	1.8	(0.84)	0	5.0
看護師 (n=108)	—	—	0.1	(0.25)	0	1.0
その他 (n=121)	—	—	0.9	(1.03)	0	7.0
入所者が2名以上の場合（夜勤帯／常勤換算）						
2名以上入所することはない (n=157)						
はい	40	(25.3)	—	—	—	—
いいえ	117	(74.1)	—	—	—	—
助産師 (n=128)	—	—	1.2	(0.49)	0.0	3.4
看護師 (n=107)	—	—	0.0	(0.19)	0.0	1.0
その他 (n=113)	—	—	0.2	(0.63)	0.0	5.0

※ 入所施設を有する助産所 (n=158) による回答である。

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。人数の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。

表 10

分娩時の体制

- 分娩時の体制として、「自院の助産師で複数人体制としている」のが44%、「自院と他院の助産師にて複数人体制としている」のが48%であり、「助産師が一人に対応している」という助産所はなかった。
- 他施設の助産師への支払い方法で最も多かったのは、「産婦1名毎に依頼し支払い」が35%であり、続いて「時給」(7%)、「日給」(4%)、「月給」(1%)であった。

N = 204

	n	(%)
分娩時の体制 (n=202)		
自院の助産師で複数人体制を確保している	89	(43.6)
自院の助産師と他助産所の助産師による複数人体制を確保している*	98	(48.0)
自院の助産師と他医療機関の助産師による複数人体制を確保している*	10	(4.9)
助産師が一人に対応している	0	(0)
その他	5	(2.5)
※の場合においての他施設の助産師への支払い方法 (n=106)		
産婦1名毎に依頼し支払い	72	(35.3)
時給	15	(7.4)
日給	8	(3.9)
月給	2	(1.0)
その他	9	(4.4)

表 11

嘱託医師・嘱託医療機関等との連携体制

- すべての助産所は、「嘱託医師あるいは嘱託医療機関」があった（未回答2施設除く）。
- 「嘱託医師数」、「嘱託医療機関数」とも平均は1.5件であり、「連携医療機関数」は平均1.7件であった。
- 「嘱託医師・嘱託医療機関、連携医療機関との出産予定妊婦に関する定期的な情報共有」は、84%の助産所が行っていた。「事例検討会・勉強会・研修会等」には、58%の助産所が参加していた。

N = 204

	n	(%)	Mean	(SD)	最小	最大
嘱託医師あるいは嘱託医療機関						
あり	202	(99.0)	—	—	—	—
なし	0	(0.0)	—	—	—	—
未回答	2	(1.0)	—	—	—	—
嘱託医師数 (n=193)	—	—	1.5	(1.35)	0	14
嘱託医療機関数 (n=200)	—	—	1.5	(1.04)	0	10
連携医療機関数 (n=189)	—	—	1.7	(1.91)	0	20
嘱託医師・嘱託医療機関、連携医療機関との出産予定妊婦に関する定期的な情報共有						
あり	171	(83.8)	—	—	—	—
なし	30	(14.7)	—	—	—	—
未回答	3	(1.5)	—	—	—	—
嘱託医師・嘱託医療機関等、連携医療機関が開催する事例検討会・勉強会・研修会等への参加						
あり	118	(57.8)	—	—	—	—
なし	82	(40.2)	—	—	—	—
未回答	4	(2.0)	—	—	—	—

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

表 12

分娩件数等

- 助産所における1年間の「分娩件数」の平均は13件。「初産婦」3件、「経産婦」10件で「経産婦」の方が多。
- 分娩場所別では、「自助産所内での分娩」が最も多く平均11.7件、続いて「自宅等への出張分娩」が1.4件、「オープンシステムによる分娩」は0.6件であった。
- 「母体搬送」の平均件数は、分娩第1期中は0.7件、第2期中は0.1件、第3期0.1件、第4期0.2件であった。

N = 204

	Mean	(SD)	最小	最大
全分娩件数 (n=196)	12.7	(13.7)	0	85
初産婦 (n=189)	2.86	(3.8)	0	20
経産婦 (n=192)	10.16	(10.5)	0	69
分娩件数 (分娩場所別)				
自助産所内での分娩 (n=184)	11.7	(14.0)	0	85
オープンシステムによる病院、診療所、他助産所での分娩 (n=168)	0.55	(3.8)	0	48
自宅等への出張分娩 (n=186)	1.38	(2.5)	0	15
その他 (n=160)	0.05	(0.4)	0	4
母体搬送件数 (分娩期)				
分娩第1期中の搬送 (n=188)	0.68	(1.3)	0	8
分娩第2期中の搬送 (n=178)	0.11	(0.4)	0	3
分娩第3期中の搬送 (n=177)	0.07	(0.3)	0	1
分娩第4期中の搬送 (n=179)	0.16	(0.5)	0	3
搬送件数 (産褥期) (n=190)	0.06	(0.3)	0	2
新生児搬送件数 (n=188)	0.32	(0.7)	0	4
1か月間の1日平均入所者数 (n=173)	1.08	(3.6)	0	30
9月1日時点における新生児数 (n=174)	0.68	(2.6)	0	30
他助産所等の入所者の分娩のサポート件数 (n=197)	2.11	(4.7)	0	25

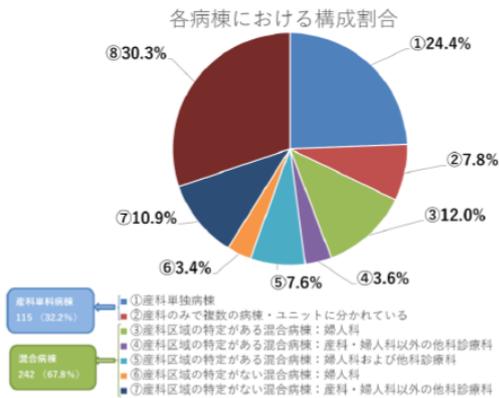
※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。人数の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。

表 13

基本情報：病棟（ユニット）票

- 「病棟（ユニット）票」は病院を対象として調査を実施し、325件（総合・周産期母子医療センター142件、それ以外の病院183件）からの回答があり、1施設あたりの「病棟・ユニット数」の平均は1.1、「1病棟・ユニット当たりの病床数」の平均は30床であった。
- 病棟構成全般をみると、「混合病棟」が68%と多く、なかでも「婦人科および他科診療科での混合病棟」が38%となっていた。

	回答施設数	回答病棟・ユニット数 (計)	1病院当たり平均回答病棟・ユニット数	各施設における1病棟・ユニット当たりの病床数
総合・地域周産期母子医療センター	142	181	1.3	28.3
それ以外の病院	183	186	1.0	31.2
計	325	367	1.1	29.8



※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

		総合・地域周産期母子医療センター	それ以外の病院	計※注1
産科単科病棟（計）	件数	86	29	115
	割合※注2	49.1%	15.9%	32.2%
	割合※注2	58	29	87
産科単独病棟	件数	58	29	87
	割合※注2	33.1%	15.9%	24.4%
産科のみで複数の病棟・ユニットに分かれている	件数	28	-	28
	割合※注2	16.0%	-	7.8%
混合病棟（計）	件数	89	153	242
	割合※注2	50.9%	84.1%	67.8%
	割合※注2	34	49	83
産科区域の特定がある混合病棟	件数	19.4%	26.9%	23.2%
	割合※注2	14	29	43
	割合※注2	8.0%	15.9%	12.0%
婦人科	件数	5	8	13
	割合※注2	2.9%	4.4%	3.6%
産科・婦人科以外の他科診療科	件数	15	12	27
	割合※注2	8.6%	6.6%	7.6%
婦人科および他科診療科	件数	55	104	159
	割合※注2	31.4%	57.1%	44.5%
産科区域の特定がない混合病棟	件数	4	8	12
	割合※注2	2.3%	4.4%	3.4%
	割合※注2	10	29	39
産科・婦人科以外の他科診療科	件数	5.7%	15.9%	10.9%
	割合※注2	41	67	108
婦人科および他科診療科	件数	23.4%	36.8%	30.3%
	割合※注2	175	182	357
計※注1	割合※注2	100.0%	100.0%	100.0%

※注1 χ^2 検定の結果 (Pearson $\chi^2(3) = 54.9283$ Pr = 0.000) から総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院での病棟構成の差は統計的に有意
 ※注2 各病棟種別内での分設施設の割合

表 14

病床数と入院料＋室料差額

- 「全室個室」の割合は、総合・地域周産期母子医療センターで19%、それ以外の病院で25%だった。
- 「1日当たりの室料差額料金」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターが43,233円で、25,107円のそれ以外の病院よりも高い傾向にあり、かつ、個室と2床室との差も若干大きい。

※注1		総合・地域周産期母子医療センター	それ以外の病院	計	
全室個室	標本数	174	177	351	
	件数	33	44	77	
	割合	19.0%	24.9%	21.9%	
個室	病床数（床）	標本数	163	171	334
		平均値	5.6	6.8	6.2
		標準偏差	4.2	5.7	5.1
	1日当たりの料金（円）	標本数	152	164	316
		平均値	43,233	25,107	33,826
		標準偏差	58,639	21,534	44,391
2床室	病床数	標本数	32	50	82
		平均値	4.5	4.8	4.7
		標準偏差	5.0	3.9	4.3
	1日当たりの料金（円）	標本数	28	38	66
		平均値	37,515	22,003	28,584
		標準偏差	42,138	19,725	31,917
入院患者のべ数 (令和6年9月1日～9月30日)	標本数	153	147	300	
	平均値	534.8	405.9	471.6	
	標準偏差	372.0	329.5	357.1	

※注1 病床数が99%パーセンタイル以上を外れ値として処理

表 15

病棟（ユニット）に配置されている職員数

- 常勤の助産師・看護師については、総合・地域周産期母子医療センターの方が、それ以外の病院に比べ人数が多い一方で、非常勤職員及び准看護師・看護補助者・保育士については両群で差はなかった。

		総合・地域周産期 母子医療センター	それ以外の病院	計
助産師				
常勤	標本数	177	179	356
	平均値	25.4	14.3	19.8
	標準偏差	12.7	9.0	12.3
非常勤（常勤換算）	標本数	165	173	338
	平均値	1.0	1.6	1.3
	標準偏差	1.7	2.8	2.4
看護師				
常勤	標本数	171	179	350
	平均値	75.2	37.3	55.8
	標準偏差	168.0	95.0	136.8
非常勤（常勤換算）	標本数	163	167	330
	平均値	1.5	1.5	1.5
	標準偏差	3.8	4.7	4.3
准看護師				
常勤	標本数	162	171	333
	平均値	0.3	0.8	0.5
	標準偏差	2.1	1.5	1.9
非常勤（常勤換算）	標本数	161	162	323
	平均値	0.1	0.1	0.1
	標準偏差	0.5	0.4	0.5
看護補助者				
常勤	標本数	164	172	336
	平均値	4.4	4.0	4.2
	標準偏差	11.3	8.4	9.9
非常勤（常勤換算）	標本数	165	167	332
	平均値	4.1	1.9	3.0
	標準偏差	10.6	4.0	8.1
保育士				
常勤	標本数	160	160	320
	平均値	0.3	0.2	0.2
	標準偏差	1.1	0.7	0.9
非常勤（常勤換算）	標本数	167	159	316
	平均値	0.1	0.05	0.1
	標準偏差	0.4	0.3	0.3

表 16

分娩期・産褥期の医師数、医師の対応時間

- 「分娩期、産褥入院中の医師数、医師の対応時間」について、総合・地域周産期母子医療センターがそれ以外の病院と比べ、人数・時間ともに数は大きかったが、標準偏差からばらつきも大きい。
- 「産婦人科医師」については、診療業務に従事した医師数、医師の対応時間ともに、「産褥入院中」に比べて「分娩期」の方が多かった。
- 「小児科・新生児科医師」については、医師の対応時間が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。

※注 1		総合・地域周産期 母子医療センター	それ以外の病院	計
分娩期の産褥の診療業務に従事した全医師数 (令和6年9月1日～9月30日)				
	標本数	29	18	47
	平均値	113	50	89
	標準偏差	117	48	101
(あ) 産婦人科医師	標本数	26	17	43
	平均値	26	21	24
	標準偏差	69	24	61
(い) 小児科・新生児科医師	標本数	26	17	43
	平均値	24	9	18
	標準偏差	23	14	21
(う) 麻酔科医師	標本数	26	16	42
	平均値	29	21	25
	標準偏差	30	15	27
(え) 上記以外の診療科医師	標本数	24	15	40
	平均値	4	1	3
	標準偏差	12	3	9
分娩期の産褥の診療業務に従事した全医師の対応時間数 (令和6年9月1日～9月30日)				
	標本数	29	18	47
	平均値	446	288	385
	標準偏差	809	483	701
(あ) 産婦人科医師	標本数	27	14	38
	平均値	508	238	425
	標準偏差	857	518	740
(い) 小児科・新生児科医師	標本数	27	13	35
	平均値	18	13	17
	標準偏差	19	21	24
(う) 麻酔科医師	標本数	21	13	34
	平均値	62	28	49
	標準偏差	76	57	71
(え) 上記以外の診療科医師	標本数	21	13	34
	平均値	5	3	4
	標準偏差	22	10	18

※注 1 1週間のデータを記録した施設について、1か月間の概算を算出するため4倍とした

※注 1		総合・地域周産期 母子医療センター	それ以外の病院	計
産褥入院中の産褥の診療業務に従事した全医師数 (令和6年9月1日～9月30日)				
	標本数	29	18	47
	平均値	75	31	59
	標準偏差	89	40	77
(あ) 産婦人科医師	標本数	25	14	39
	平均値	27	24	26
	標準偏差	59	16	50
(い) 小児科・新生児科医師	標本数	25	13	38
	平均値	23	9	18
	標準偏差	37	15	32
(う) 麻酔科医師	標本数	24	13	37
	平均値	28	9	20
	標準偏差	15	17	14
(え) 上記以外の診療科医師	標本数	23	13	36
	平均値	3	0	2
	標準偏差	5	1	4
産褥入院中の産褥の診療業務に従事した全医師の対応時間数 (令和6年9月1日～9月30日)				
	標本数	29	18	47
	平均値	234	120	190
	標準偏差	621	212	430
(あ) 産婦人科医師	標本数	27	13	35
	平均値	163	140	155
	標準偏差	275	213	261
(い) 小児科・新生児科医師	標本数	27	12	34
	平均値	138	20	96
	標準偏差	545	60	441
(う) 麻酔科医師	標本数	21	12	33
	平均値	4	7	5
	標準偏差	7	18	15
(え) 上記以外の診療科医師	標本数	21	12	33
	平均値	3	0.8	2
	標準偏差	8	1	6

表 17

産科の患者の入院割合、看護職の従事時間等

- 「病棟における産科患者の入院割合」は総合・地域周産期母子医療センターで60%、それ以外の病院で47%だった。
- 「看護職」は、総合・地域周産期母子医療センターの方が、それ以外の病院と比べ、労働時間数が長いが、標準偏差からばらつきも大きかった。
- 「看護職」については、ケアに従事した時間数が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。

※注1		総合・地域周産期 母子医療センター	それ以外の病院	計
病棟（ユニット）における産科の患者の入院割合 （令和6年9月1日～9月30日）	標本数	76	63	139
	平均値	60.4%	47.0%	54.3%
	標準偏差	39.1%	34.1%	37.4%
全看護職の総労働時間数 （令和6年9月1日～9月30日）	標本数	93	72	165
	平均値	2,244	1,103	1,746
	標準偏差	6,496	3,290	5,355
分娩期のケア				
全看護職の分娩期のケアに従事した時間数	標本数	33	14	47
	平均値	1,486	868	1,302
	標準偏差	4,724	994	3,986
（うち）助産師が分娩期の ケアに従事した時間数	標本数	30	14	44
	平均値	629	731	662
	標準偏差	777	797	776
産褥入院中（新生児含む）のケア（授乳、育児等の保健指導を含む）				
全看護職の産褥入院中（新生児含む）のケアに従事した時間数	標本数	32	15	47
	平均値	1,622	1,968	1,732
	標準偏差	1,791	2,461	2,008
（うち）助産師が産褥入院中（新生児含む）に従事した時間数	標本数	29	15	44
	平均値	1,543	1,481	1,522
	標準偏差	1,507	2,276	1,779
産婦健康診査（産後1か月までの褥婦と新生児）実施有	標本数	81	64	145
	件数	62	59	121
	割合	76.5%	92.2%	83.4%

※注1 1週間のデータを記録した施設について、1カ月間の概算を算出するため4倍とした
※すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。